

製品名: TPH2 (リン酸化 Ser19) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05574**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	TPH2
別名	TPH2; NTPH; Tryptophan 5-hydroxylase 2; Neuronal tryptophan hydroxylase; Tryptophan 5-monooxygenase 2
遺伝子 ID	121278.0
SwissProt ID	Q8IWU9
免疫原	ヒト TPH2 のリン酸化部位（リン酸化 Ser19）周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

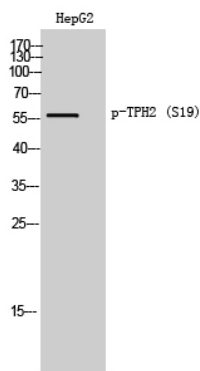
この遺伝子は、プテリン依存性芳香族酸水酸化酵素ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、重

要なホルモンであり神経伝達物質であるセロトニンの生合成における最初の段階であり、律速段階を触媒します。この遺伝子の変異は、双極性感情障害や大うつ病などの精神疾患と関連している可能性があります。[RefSeq 提供、2016年2月],触媒活性: L-トリプトファン + テトラヒドロbiopterin + O(2) = 5-ヒドロキシ-L-トリプトファン + 4 α -ヒドロキシテトラヒドロbiopterin,補因子: Fe(2+)イオン,疾患: TPH2 の遺伝的変異は、大うつ病性障害 (MDD) の感受性に影響を与える可能性があります [MIM:608516],経路: 芳香族化合物代謝; セロトニン生合成; L-トリプトファンからセロトニン: ステップ 1/2,類似性: biopterin 依存性芳香族アミノ酸ヒドロキシラーゼファミリーに属します,類似性: 1つの ACT ドメインを含みます,組織特異性: 脳特異的です。

研究分野

トリプトファン代謝

画像データ



リン酸化 TPH2 (S19) ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析